

数理・データサイエンス・A I 教育プログラム自己点検評価報告（令和5年度）

1. 自己点検評価の内容

福山大学は、現在、数理・データサイエンス・A I 教育プログラム（リテラシーレベル）、（応用基礎レベル）を継続している。具体的には、リテラシーレベルは、4年目（令和2年度開始）、応用基礎レベルは、3年目（令和3年度開始）である。

リテラシーレベル、応用基礎レベルともに、令和3年度の実績により、文部科学省の「数理・データサイエンス・A I 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）」として認定された。認定有効期限は令和9年3月31日である。認定を受けて、大学のWeb ページで次のように記載している。Web ページの記載で、応用基礎レベルが工学部となっているのは、令和3年度の修了者の実績によるものである。応用基礎レベルは、工学部の学生に限定せず、全学の学生が受講できる。

○ リテラシーレベル（全学部）

数理・データサイエンス・A I への関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を育成します。リテラシーレベルについては、1年生のときから一部の授業が始まりますので、入学予定者の皆さんは楽しみにしてください。

○ 応用基礎レベル（工学部）

数理・データサイエンス・A I に関して、リテラシーレベルよりも進んだ内容で、課題を解決するための実践的な能力を育成します。工学部の学生を対象としていますが、自由聴講制により、全学生が履修できます。

修了証の発行について

福山大学数理・データサイエンス・A I 教育プログラムを修了した学生には、事前（卒業する年度）の本人からの申し込みにより、卒業時に修了証が発行されます。修了条件の説明は下にあります。修了証の申し込みについては、教務課で行うことができます。

現在、本プログラムは、適切な教育内容を提供しており、運営上の問題はなく、引き続き本プログラムを実施する。令和5年度からは、リテラシーレベルについて、卒業生対象の修了証発行を開始する。これは、当初の予定通り、3月の所定の期日までに修了証を希望した学生に対して、卒業時まで修了証を本人に渡すものである。また、他大学との連携強化を継続しており、更なる発展を目指して取り組んでいる。今後も、適切な教育内容を提供し、より良い人材育成を目指していく。

2. 実績

・令和5年6月：中国地区の他の高等教育機関対象の「応用基礎レベル」の普及活動に貢献。

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 2023年度 第1回コンソーシアム中国ブロックシンポジウムで講演。福山大学の取り組みについて説明した。(令和5年6月23日)

- ・令和5年10月: 「教育のDXによる質的転換」に関する外部評価への貢献
効果的で質の高い学修の実現におけるデジタルの活用等において、種々の観点を提案した。特に、DXの素養と基礎スキルならびにDXの素養を有する学生の育成について、数理・データサイエンス・AI教育プログラムと関連が深いこと、そして、福山大学における実績を説明した。(令和5年10月20日)
- ・令和6年3月: 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)の修了予定者数の確認
複数学部にわたる93名の修了者が見込まれることを確認。
- ・令和6年3月: 数理・データサイエンス・AIの教材の進展
現在までの点検結果を踏まえ、数理・データサイエンス・AIの教材の改定を行った。
(令和6年度に再度の点検を行い、学内共有と公開を進めていく)。

3. 次年度の活動計画

以下は、数理・データサイエンス・AI教育部門・令和6年度(次年度)の活動計画である。

- (1) 自己点検の継続
数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)、(応用基礎レベル)の教育内容について、検討を継続し、必要な変更がある場合には、令和7年度のシラバス変更を行う
- (2) 関係するWebページの必要な更新の継続
関連するWebページの情報が最新であることを確認し、必要な更新を継続的に行う。
- (3) 応用基礎レベルの修了証の発行開始
応用基礎レベル(令和2年度開始)は4年目となり、卒業時に修了証を受け取ることができるようになる。
- (4) 修了証の発行と配布に関する検討
現在は、希望者のみに配布するようにしているが、卒業式の日に関係者全員に配布する形態への変更について検討する。

(5) 福山平成大学ならびに中国四国地区の他大学との連携の継続

教材の公開などの種々の活動で、他大学の教材を確認・検討したり、情報公開したりなど、連携を継続していく。

(6) 数理・データサイエンス・A Iの教材

令和5年度に3コマ分のパワーポイント教材を改定済みである。これについて、令和6年度に再度の点検を行い、学内共有と公開を進めていく。さらに、数理・データサイエンス・AIに関するモデルカリキュラムの再確認を行い、生成A Iに関する授業の充実など、必要な措置を検討する。

以上が、数理・データサイエンス・A I教育部門の令和5年度の自己点検評価報告（次年度の活動計画の案を含む）になる。必要に応じて変更や追記を行う。